

1 学校教育目標

- 明るく元気な子 礼儀正しいあいさつ・運動習慣・正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康で安全な生活を送ることができる子ども
- ◎ 自ら考え学び合う子 教科学習、読書、体験的な活動、地域の人々との関わり、様々な体験による学びを通して、考えを深めることができる子ども
- 仲よく助け合う子 他者への優しさ、協力の大切さに気付き、助け合い、信頼関係を深めながら、よりよい人間関係を築こうとする子ども

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	明るく、楽しく学びがいのある学校	安全・安心で信頼できる学校	地域に貢献する学校	夢の実現をめざす学校
○児童・生徒像	㊸かよく助け合う子ども ㊹んばりへこたれない子ども ㊺ことん考え学び励む子ども			
○教師像	子どもと共に歩む教師 創造し、実践する教師 常に学び成長する教師 和を尊び協働する教師			

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校】新型コロナウイルス感染予防対策を確実に実行し、創意工夫・柔軟性に富んだ学校運営を図る。

- 新型コロナウイルス感染予防対策を確実に実行し、共通理解・実践を図りながら、様々な課題に向き合い、解決してきた。
- 教師自らが、日々、研究と修養に努め、特に、学習指導力の向上の意識を各自が持ち続け、実践していくこと。
- 子どもと向き合う時間の確保し、子どもの望ましい学習・生活・運動・読書習慣の定着に向け、全学年共通実践を行うこと。

【児童】個別の状況を把握し、その子に応じた指導・支援を行う等、一人ひとりを大切に育む

- 素直に何事も取り組む児童が多く、明るく元気に挨拶をする習慣が身に付きはじめている。
- 学びへ丁寧さが着実に育まれ、その成果が結果に結び付くようになっている。
- 友達に対しての口調や言葉の選び方をはじめ、相手や場に応じた正しい言葉遣いを使えるようにしていくこと。

【保護者・地域】

- 学校の教育活動に対して理解を示し、信頼して子どもを学校に通わせている。
- PTA・地域は、学校と共にこの難局を乗り越えていこうと一致協力体制を組み、学校行事や地域行事に取り組んでくださっている。
- 一人ひとりの子どもの成長に向け、それぞれに抱える課題に向け、情報交換を大切に、連携して対応する。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	児童理解に基づく、生活指導・特別支援教育の充実	○	○	○	○	○
3	安全・安心な学校づくりと学校における豊かな体験活動の充実	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもの学習習慣の定着 タブレットPC活用の充実 指導力向上中核校としての充実 		全学年全教科 目標通過率目標 85%		学校全体の通過率 国語 89.0% 算数 90.5% (2・4・5年生下回る)		学校全体として、平均正答率が下がっていることから、基礎基本の定着度合いを調査し、教科指導法の改善に至急図る。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	学習習慣の定着 (家庭学習含)	全学年 全教科	日常	学年の発達段階に応じて、全学級が保護者と連携して、学習の習慣化を図る。	学力調査(意識) 保護者アンケート 教員による評価	実態把握 90%以上の実施率	・学力調査(意識)結果、「宿題がないときでも家で勉強する」63.9%	学年の発達段階に応じて、自学自習の習慣化を図るよう徹底する。	●
継続	AI型教材を活用した学びの個別最適化	全学年 国語 算数	日常	授業の導入・展開・復習の場面で活用し、一人一人に応じた指導を行う。	学習データの 確認	各単元の習熟度 90%以上	・各学年、教科、単元によって、習熟の低い学習内容が見られる。	AIドリルの活用の仕方を学校全体で規準を作成する。(既習事項の確認→適応問題⇒補充問題)	●
継続	学習指導の 確実な実践	全教員 全教科	日常	管理職が週案と照らし合わせながら、授業実践の実態を観察する。	週案による評 価と指導	週ごとの実態把握 90%以上の実施率	・週案による実態把握・評価・フィードバックを実施。 ・学習技能・学習規律に関する指導・助言を行う。	学習指導に特化した内容を週案に記録するように改善する。学習技能・学習規律の指導・助言は継続して行う。	○
継続	教員の学習 指導力の向上	全教員 全教科	日常・ (6・9・ 11月)	管理職が授業観察と評価及び全教員への指導・改善を指示する。年間3回実施。(自己申告面接時)	2月学力調査 テスト結果	国語・算数通過率 85%以上	・授業観察と評価及び指導改善に向けた指導助言は丁寧を実施。 ・若手教員は教科指導専門員の指導を受けて、実践と改善を行っている。	実態把握に留まるところが多く、授業改善の指導・助言は部分的。年間を通じて、テーマを決め、具体的かつ継続的な観察を実施し、学習指導力を高める。	○
継続	各教科・ 領域の指導 時数確保の 徹底	全教員 全教科	月毎	教務主任が目標数値と照らし合わせ、計画通りの時数実施を確認する。	時数報告用紙	月毎に90%以上の 計画実施率の 確保	・月毎に90%以上の計画実施率の確保を確認している。	未履修の学習がないか各教科の確認の徹底。 苦手な領域、学習内容の復習、補充指導を組織的に実施する。	○
継続	指導力向上中核校 研究推進	全教員 国語科	研究授業年間 4回	読みの力を身に付けるための実践的研究を行う。研究過程や研究成果等の情報発信を行う。	指導主事等の 指導・助言 情報発信 実態把握	児童の説明的文章の正答率90%以上 他校教員参観の増加	・正答率が超えたのは、3学年と6学年のみ。 ・1/30に研究のまとめを発信 ・指導方法について、教材研究を越え、一般化できる研究成果の共有が弱い。	指導力向上中核校の研究内容・実践が、研究授業を行う教材レベルで留まっている。指導方法の研究が、読みの学習の汎用性につながり、一般化できるものにレベルを上げる必要がある。	△

重点的な取組事項－２		児童理解に基づく、生活指導・特別支援教育の充実			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
<ul style="list-style-type: none"> 安定した登校実態の実現 いじめの早期発見・早期対応 	不登校／登校渋りの児童数の割合の減少（昨年度比） いじめの未対応・重大事態 0 件	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度まで登校渋りの児童が安定して登校する一方新たに登校渋りの様子を見せる児童が出現した。 いじめの未対応、重大事態 0 件 	不登校、登校渋りについては、保護者と綿密に面談を行い、登校支援を継続的に実施している。 いじめについては、早期発見、迅速な対応に努める。	◎	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校の早期発見・対応	不登校／登校渋り実態の改善（昨年度 0 人）	実態把握と早期対応 保護者との面談・連携 SC・SSW の活用した教育相談	<ul style="list-style-type: none"> 実態把握と早期対応のための校内委員会を実施し、対応策を協議した。 保護者との面談・連携を随時行い、SC・SSW 等と連携した教育相談を実施した。 生活指導夕会等で、全教職員との情報共有し、必要に応じて、関係機関との連携を図った。 オンライン、家庭学習等当該児童の学習の保障を行った。 	登校しぶり児童に対する対応は、校内ケース会議、担任と保護者との面談の設定等、早期対応出来ている。 不登校、登校しぶりの主な理由は、個々によって様々である。未然防止策の強化を図る。	○
特別な支援を要する児童への早期対応	支援や配慮を要する児童への支援率 100%	校内研修会の実施 校内委員会の充実（定期・随時） 迅速なケース会議の実施（関係機関等との連携）	<ul style="list-style-type: none"> 校内における研修会はもちろんのこと、職員会議、生活指導夕会等での情報共有の場で支援や配慮の必要な児童に対する対応を協議し、実践した。 校内委員会を随時実施、SSW、SC と連携して指導方針の確認を行った。 	安定的な学級経営、学習指導を行うためには特別な支援を要する児童の対応が必要不可欠。 校内委員会、生活指導夕会の場で情報共有、共通実践を継続的にやってきた。	◎
いじめの・不登校の早期発見・早期対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめの解消率の上昇 重大事態の件数 0 不登校、登校渋りの児童への支援率 100% 	日々の学級指導・学級経営 定期的に実態把握（6・11月・2月） 校内生活指導連絡会における情報共有と共通実践	<ul style="list-style-type: none"> W-QU の結果分析研修会を年間 2 回、全教員で実施し、要支援群だけでなく、支援や配慮が必要な児童、人間関係に悩む児童がいないか協議した。 重大事態 0 件 いじめアンケート、児童、保護者からの訴えについて、迅速に対応し、早期発見、早期対応を徹底してきた。 支援率 100% 	いじめの訴え（認知件数） 40 件（そのうち 18 件解消） 22 件（経過観察中） いじめは、「しない、させない、許さない」の意識を啓発することが今後も課題。	◎
WEBQU の活用 要支援群の指導改善	要支援群に属する児童の 80%以上改善（2 月）	検査結果の分析・指導改善 校内研修会の実施（情報共有と共通実践の確認）	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 回目の W-QU の結果、学級生活満足度は学校全体の平均が 75.2%。要支援群は 2 人。 W-QU の結果分析研修会を年間 2 回、全教員で実施し、要支援群だけでなく、支援や配慮が必要な児童、人間関係に悩む児童がいないか協議した。 	第 1 回目に比べ、第 2 回目の学級生活満足度が上昇した学級は、7 学級中、1 学級に留まる。 要支援群に属する児童数は、4 人から 2 人と減少。 教師と児童、児童同士の人間関係を深める指導を共通実践したい。	◎

重点的な取組事項－3		安全・安心な学校づくりと学校における豊かな体験活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・礼儀正しいあいさつの習慣化 ・児童の読書の習慣化 ・病気に負けない体づくり（体力向上） 		学校に行くのが楽しい自己評価90%以上 あいさつをするなど、学校のきまりを守っている 自己評価95%以上（意識調査） 体力向上の取組（縄とび・持久走等）の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい92.6%（意識調査） ・礼儀正しいあいさつが出来る児童となかなか定着しない児童との差がある。 ・校内持久走大会は、参加者全員完走。 	礼儀正しいあいさつの習慣化は今後も全学級共通実践で継続的に取り組む。 今後も体力向上の取組充実を図る。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
子どもと教職員とのあいさつの習慣化 （安心できる学校環境づくり）	子ども・教職員の自己評価95%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時の全教職員であいさつ実施の徹底 ・挨拶運動の実施 ・あいさつ等の善行者表彰 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の登校時、全教職員であいさつの実施は徹底できた。（担任は教室で、専科等の教職員は玄関で）個別に声を掛ける等、児童観察、児童とコミュニケーション図るきっかけとなっている。 ・周目標で設定するも、継続・徹底が不十分。 	礼儀正しいあいさつが出来る児童となかなか定着しない児童との差をなくしたい。 習慣化するまで、継続的に全教職員で共通実践を行い、その成果を家庭、地域に発信したい。	△
安全な学校づくり	子ども・教職員の自己評価95%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した合同防災避難訓練の実施等の体験的な防災教育の実施 ・交通安全・生活安全等の安全教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行くのが楽しい92.6%（意識調査） ・W-QUの結果、学級生活満足度 学校全体の平均が75.2%。 ・交通安全教室、避難訓練、セーフティ教室等予定した安全教育は全て実施。 	本校の実態を踏まえた安全教育（自然災害、交通安全）プログラムの作成を行いたい。 SNSトラブルを未然に防ぐ、情報モラル教育の充実を図りたい。	○
読書指導の充実	児童の意識調査の肯定的回答90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館を活用した授業実践を各学年2事例以上実践する。 ・全教職員による読み聞かせの毎月実施等、読書指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の利活用状況において、児童一人あたりの貸出冊数が58.3冊（12月末）。前年の4月～2月の貸出冊数を上回るペースの活用状況となった。また、1ヶ月に2冊以上読む児童の割合が89.6%（前年度73.8%）と上昇。 ・学校図書館スーパーバイザーの助言を受けながら、各学年、学校図書館を活用した実践を行った。 	学校図書館利活用推進校の事業を通して、第2図書館（調ペルーム）の整備を行う等、読書環境の整備が進んだ。 学校図書館を活用した教科の学習の実践を全学年、計画的に行えるようカリキュラムを編成する。	◎
地域との連携を図り、魅力ある教育活動の展開	子ども・教職員の自己評価95%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のよさや日本の伝統文化を学ぶ。（生活科総合的な学習の時間） ・自分が暮らして育つ地域に愛着をもち、日本の文化や伝統を受け継ごうとする心を育む。（60周年記念行事） 	<ul style="list-style-type: none"> ・開校60周年記念事業・式典を行い、各学年の発達段階に応じて、学校の歴史を知り、地域の人材や教育資源に体験的に触れる学習活動を行った。 ・「今住んでいる地いきこくけんできるような大人になりたい。」肯定的回答85.2%以上（高学年） 	今後、カリキュラム（生活科・総合的な学習の時間）の見直しを随時行い、2月までに次年度以降も実施する内容を確定させる。	◎
保護者／地域への情報発信（安心）	HP継続的更新 必要時のメール配信 学校だよりの充実	児童の実態・指導内容の共有と迅速な情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・HP継続的更新は、技術上の問題から学校だよりの給食だより（毎日の献立）、各行事の緊急連絡のみに留まる。 ・学校だよりによって、学校行事、各学年の行事・学習の様子を詳細に伝えた。 	HP継続的更新は、googleを使った作成、更新に変更する。 保護者への発信方法については、Home&SchoolとClassroom、HPとのすみ分けを検討する。	△

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

開校60周年を迎え、周年行事や地域・保護者の方々との交流を通じて、開校当時より本校の教育的使命である「地域と共に歩む学校」を児童、教職員ともに実感することができたことが大きな成果である。今後も、本校の児童が自分の生まれ育った地域を愛し、その地域から愛され大切にされているこの長門小学校を誇りに思えるようにすること。また、一人一人の児童が、安心して学校生活を過ごし、充実感や達成感を味わえるように、教育活動・学習指導の充実に今後も努める必要がある。

【課題と解決の方向性】

児童の発達段階に応じた、望ましい習慣化の定着を図ること。(学習習慣・正しい生活習慣《あいさつ》・運動習慣・読書習慣の定着) 児童に望ましい習慣を身に付けさせるために、全学年で発達段階に応じた共通実践を行うこと。また、児童自らが充実感や達成感を味わえるような学習活動の設定と指導を行うこと。

一人一人の児童の心理面・学習面・社会面・健康面の発達のために教職員が組織的に取り組み、一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長を支えられるよう指導を行うこと。

学校と家庭とのより良い信頼関係を構築できるよう、「学校だより」をはじめ、保護者会、個人面談・相談の充実をより一層図るとともに、学校の教育活動の基本方針等について保護者に丁寧に説明し、学校と家庭との共通理解、合意形成を図ることをさらに努力する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者も皆様には、いつも本校の教育活動について、ご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。本校の児童は、遅刻や欠席が少なく、朝からお子様が無事に学べるよう、ご家庭から学校にしっかり送り出していただけること、大変、ありがたく思っております。

学校と家庭が連携して、生活のために必要な習慣を身に付けさせ、一人一人のお子様の調和のとれた心身の発達を図るよう教職員は教育活動・指導の改善に取り組んでまいります。「やればできる」「分かった」「役に立った」などの自己肯定感や自己有用感をお子様に味あわせるよう取り組んでまいりますので、今後も、本校の教育活動へのご理解とご協力をどうぞ、よろしくお願いいたします。

地域の皆様には、いつも温かく、時には厳しく、本校の子どもたちのことを思い、見守り、力をお貸しいただき、誠にありがとうございます。「地域と共に歩む」「一人一人を大切に」学校をモットーにして、長門小の子どもたちの力と可能性を信じ、子どもたちが思いっきりチャレンジできる教育環境教職員一同、全力でつくります。そして、子どもたちからは、「長門小学校に通ってよかった！」保護者の方からは「長門小学校に通わせてよかった！」と言っていただけよう教職員一丸となって、取り組んでまいります。

(3) その他(学校教育活動全般について)

今後も、学校全体、各学年に様々なゲストティチャーをお迎えして、体験的な学びに取り組んでまいります。貴重な経験・体験を通して、心豊かな子の育成に努めてまいります。

安全・安心な学校づくりをめざし、地域と連携した合同防災避難訓練の実施等の体験的な「防災教育」の実施、交通安全・生活安全等の「安全教育」の実施、SNSトラブルを未然に防ぐ、「情報モラル教育」のより一層の充実を図ってまいります。